

令和 4 年度 県立下館第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す学校像	【目指す学校像】 自主自立の精神を有し、地域のリーダーや国際社会で活躍する人財を育成する学校 【育てたい生徒像】 様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダー ○ 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒 ○ 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒 ○ 未来のリーダーとして活躍できる、知・徳・体のバランスのとれた生徒		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
学習指導では、5 5 分授業と授業時数増により、時間にゆとりをもたせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を目指した。コロナ禍でのオンライン授業等で、教師の ICT 機器の活用技術が向上し、普段の授業の中での ICT 機器の活用が定着してきた。学年が上がるにつれ、生徒一人一人の学力差が大きくなってきている。アクティブラーニングの視点からの授業改善、少人数、TT の授業の充実を更に進めていく必要がある。中学校と高校、教科間の連携をより密にしていきたい。 複数担任制での学年運営を通し、生徒一人一人に寄り添った関わりを目指した。ほとんどの生徒が、学習に対して前向きに努力し、基本的生活習慣を身に付け生活できている。個別の教育相談や家庭との連携、補習授業等で対応してきた。人間関係や学習のつまずきに対して悩む生徒がおり、学校を休みがちになる生徒が出てきた。生徒に寄り添い、家庭との連携を更に密にし、よりよい人間関係の構築のための取組を活性化させていきたい。 校外での体験活動の実施が難しい中で、工夫しながらキャリア教育に関する実践的・体験的な活動を大切にしたい。将来の夢や希望について、考えを深めることができた生徒が増えてきた。小学校、中学校、高等学校をつなぐ組織的・系統的なキャリア教育を更に充実させ、将来への意欲をもたせていきたい。キャリア・パスポートの効果的な活用についても課題である	基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	①問題解決的な学習や協働的学習スタイルを積極的に取り入れ、附属中学校 7 校連携事業や総合的な学習の時間で身に付けた手法を生かした授業を展開する。 ②習熟度別学習や TT での指導の充実を図る。 ③校内研修の充実を図る。 ④中学校と高校、教科間の連携をより密にし、教育課程の特例を十分に生かした学習指導を行っていく。 ⑤ICT 環境の効果的活用により学習の個別最適化を推進する。	B
	正しく判断し、思いやりのある生徒の育成	⑥複数担任制を生かし、より正確な生徒理解に努め、個に応じた指導を効果的に行う。 ⑦全員で協力して実践する活動等を工夫し、意図的に設定する。 ⑧学校内はもちろん、校外においても元気の挨拶を励行する。 ⑨道徳科の授業を充実させ、道徳的価値の理解と実践力を育成する。 ⑩職員間の共通理解を図り、同一内容での指導を徹底する。	B
	特別活動の充実	⑪附属中独自の生徒会組織体制を確立し、生徒会活動の活性化を図る。 ⑫学級活動における話し合い活動の充実を図る。 ⑬近隣の中学校や小学校と連携した取組を計画、実践する。 ⑭学校行事の改善充実を図り、中高一貫校としての新たな伝統の継承に努める。 ⑮キャリア・パスポートを積極的に活用し、積み重ね、振り返りを充実させる。	A
	広報活動の推進と地域との連携	⑯生徒主体の学校説明会や学校公開を企画、実施する。	

別紙様式 2 (中)

報告・連絡・相談と指導・助言・調整が機能的に働くよう I C T 機器を積極的に活用した。質の高い効率的な組織運営の実現を目指し、適切な役割分担と連携のある組織づくりを推進した。「さんむくん」を活用し勤務時間を管理してきた。業務効率化に向けた I C T 機器の活用を更に推進する。仕事内容等の精選・合理化に関する職員の意見を積極的に取り入れ、実現していきたい。			⑰ホームページの更新回数を増やしたり、学校案内等を刷新したりするなど積極的な情報発信に努める。 ⑱探究活動等における筑西市や地元企業との連携を強化する。 ⑲小学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑳学校評議員会、P T A、同窓会等との連携を強化する。 ㉑高校と有機的に連携し、魅力ある学校づくりに全職員一丸となって取り組む。	B		
		働き方改革の実現	㉒各校務部及び学年等で協議したり、個別に職員の意見を聞いたりして仕事内容等の精選・合理化を進める。 ㉓役割分担を細分化、明確にすることで業務の効率化を図る。 ㉔ I C T 機器を効果的に活用した情報伝達・共有を更に推進していく。 ㉕働き方改革に対する教員の意識を向上させる。	A		
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	国語	中高 6 年間を見通した指導計画・及び評価規準を定め、授業の PDCA サイクルを活性化する。	日常生活において自学自習の習慣を徹底させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。中高 6 年間を見据えた授業の PDCA サイクルを回し、課題に意欲的に取り組ませる。①	B	A	自走力の涵養⇒成果の「見える化」を目指す。
			定期考査や学力推移調査等、出題傾向の分析を通し、解答の根拠を明確化し、得意分野・苦手分野を意識させながら自己分析の理解を促進する。①	A		学力推移調査 GTZ の A ランク到達率 70% ⇒傾向分析と対策の徹底を図る。
		読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワークやディベートを授業の中に積極的に取り入れる。また Chromebook を活用し、意見や理解の共有を深める。①②	A		今年度の方策を継続・踏襲する。
			年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。コンクールに投稿すべく、授業で俳句や短歌などの創作活動に取り組み、表現力の伸長を図る。①④	A		今年度の方策を継続・踏襲する。
		ICT スキルの定着を推進する。	タイピングにはじまり、分かったことをレポートにまとめ、スライドを作成してプレゼンテーションをおこなえるようになるまでの技術の習得を図る。①②④	A		ロイロノートへ移行し、発展的解消を目指す。
			参考資料を検索し、情報の取捨選択ができるよう、情報リテラシーについての理解を深める。②③	B		教科書単元とリンクさせる。
		読書習慣の定着を促進する。	学級文庫・学年文庫など、読書環境を整える。図書室と連携し、授業で扱った教材に合わせた書籍紹介を行うように努める。①	B		入学者説明会等、広報活動とリンクさせる。
			ビブリオバトルや各種コンクールなど、読書に関するイベントへの参加や応募を積極的に促	A		今年度の方策を継続・

別紙様式 2 (中)

			す。①③④			踏襲する。
	社会	協働的・探究的な学びの充実を図る。	生徒が予想を立て、見通しをもって行う問題解決的な学習課題の工夫を図る。①	B	B	個別最適な学びと協働的な学びの実現のための方策を吟味する。
			ディベートなどにより、社会的事象の意味や意義を解釈し、表現する場を設定し、学び合いのできる学習を行う。①	B		
		社会的な思考力、判断力、表現力の育成を図る。	ICT 機器等を積極的に活用し、生徒の学習意欲を喚起する学習課題の工夫を図る。①⑤	A		ICT 機器を活かした、課題解決学習、資料・グラフ等の読み取りをさらに進める。
			複数の資料から必要な情報を集めて読み取り、要点を簡潔に文章で表す言語活動を取り入れた学習を行う。①	A		
		中高6年間を見通した指導計画を作成する。	小学校社会科及び生徒の実態を踏まえた指導計画の作成と中高一貫教育に対応したカリキュラムの検討を進める。④	B		生徒の実態を踏まえた指導計画の作成を進める。
			授業担当者による相互授業見学及び研究協議等を実施する。③	B		
	数学	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。③⑩	A	A	引き続き時間をよく見て行動させる。
			年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。③④	A		来年度も継続する。
			毎時間の小テスト、章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へのフォローを行う。③④	A		来年度も継続し、個別指導もより充実させる。
			学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。③④	A		来年度も継続する。
		家庭学習習慣の定着に努める。 自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	課題に取り組ませ、家庭学習の習慣をつける。④	B		未提出者に対して面談を行い改善していく。
			授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。③	A		来年度も継続する。
			学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。②③	B		実態調査の頻度を検討し、指導法を工夫する。
			学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。特にコンピュータを活用した授業を研究する。②	B		ICTを利用して授業をより充実させる。
		理科	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。②③	A	A	探究と合わせて横断的な指導ができた。
			教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。②③	A		ロイロノートを活用して、考察を深めたりレポートを共有する機会を積極的に設けることができた。
			資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。②③	A		

別紙様式 2 (中)

		自然現象に関する問題提起をし、理科的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業づくりを行う。 ②③	A		グループでの実験や考察を通して、体験を通じた学びを推進できた。
			単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。 ②	A		単元毎に計画的に実験を実施できた。
		進学に対応できる思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習時間を確保する。 ③④	A		単元末でまとめの時間を計画的に位置づけることができた。
			理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。 ②	B		教材研究の時間は取れたが、外部の研修への参加も増やしたい。
		生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。 ②④	A		課外補習の時間を適時設けることができた。
			オンライン環境を活用し、個別指導の充実を目指す。 ③	A		メール等を積極的に活用して個別に質問に対応できた。
	保健 体育	保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。 また、授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。 ②③	B	B	その場しのぎの授業にならないよう、単元計画をきちんと立てる。
			最新のデータや資料をもとに、学習カードやICT機器を活用してペアワークやグループ学習など、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施する。 ①②③	B		場所によって、ICT機器の使用制限があるため、より工夫していく。
		現代社会の中で心身共に健康に生きる為の知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身につけるようにする。 ①	C		体験的な保健の授業を行うなど、より多くの経験をさせることが大切である。
			養護教諭との連携を図った、体験的な保健の授業 ②⑤			1回目のノートの提出率が低いため、きちんと1度で提出ができるようにしていく。
			保健ノートのまとめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。 ②③	B		体力テストの記録向
		基礎体力の向上を図る。	年度を通じて、各学期に各学年とも体づくり運動の時間を設ける。 ②	A		

別紙様式 2 (中)

						上に向けて、日々の積み重ねを大切にしたい。
			ゲームの進め方を工夫し、生徒一人一人の運動量を確保する。 運動が苦手な生徒でも積極的に取り組めるようなルールを設定する。 ①②⑧	B		共生の視点をもって、誰もが楽しめるルール設定をしていく必要がある。
		種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい、生涯にわたって運動する習慣を定着させる。	各種目で経験者をグループ内に配置し、スモールティーチャーを設ける。 ②⑥⑪	A		生徒が活躍する場面をもっと意図的に増やせるようにする。
			バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。 ⑥⑪⑱	B		一人一人の実態把握をきちんとしていきたい。
		スポーツを通してルールを守る習慣を定着させる。	単元後半のゲームでは、互いに審判を経験することで、ルールを覚えたり、各競技の楽しさを知ったりすることができるようにする。 ⑥⑬	B		「する」、「みる」、「支える」という3つの観点を授業内にきちんと伝え授業展開をしていきたい。
	技術 家庭	学習意欲を高める授業を展開する	実験・実習・体験学習等を多く取り入れた授業を展開する。 ②③	B	B	継続して実験・実習等を多く取り入れていきたい。
			異文化についての教材を取り入れ、興味関心を喚起する。 ①⑬	B		国外の事例についても率先して取り入れていきたい。
		思考力・判断力・表現力を育てる授業を展開し、主体的態度を育成する	三観点を意識したワークシートを作成し、思考力・判断力・表現力を把握する。 ②③	B		より観点を意識した指導ができるよう工夫をしていく必要がある。
			実験・実習の充実を図る。 ⑥⑱	B		さらなる実習の充実を図っていきたい。
		環境整備に努める	学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。 ⑩	A		来年度も継続して学習環境の整備、実験・実習時の安全の確保に努めていく。

別紙様式 2 (中)

	英語	指導力の向上を図る。	授業を公開し、校内で研究協議を行う。①②⑤⑪	B	B	高校と連携し、授業改善に努めていきたい。
			他校視察、研修会等への参加を通して指導法の研修を行う。①②⑤	B		
		生徒が授業や家庭学習に主体的に取り組めるよう適切に支援する。	音声指導やフォニックスの活用を通し、基本的なコミュニケーション能力が定着するよう指導を工夫する。①②	B		コロナ禍で口元を見せての音声指導が難しい点があった。次年度以降工夫したい。
			スモール・トークなど、口頭発表の機会を多く設け、生徒が主体的に活動できる授業を実践する。①②	A		
			課題や自学ノートを随時点検し、家庭学習の状況や理解度を確認する。①②⑨	A		
			授業公開や研修の機会を設け、中高の教員間での情報共有に努める。①②③⑤⑨⑪	B		Can-Do リストを見直し、年間指導計画の充実を図りたい。
		高校との連携を深める。	6年間を見通した効果的な指導体制づくりを進めるため、教科会等で議論を深める。⑤⑪	B		
1 学年		基本的な生活習慣の確立を図る。	挨拶の励行に努め、遅刻・早退などの指導を徹底する。⑧⑨	A	A	早期指導を学年で連携して行えた。次年度も続けたい。
			服装等の指導を徹底し、制服を正しく着用させる。⑥⑨	A		生活部と連携した早期指導が徹底できた。継続したい。
			清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。⑥⑦⑨⑩	A		必ず清掃担当者の指導の下、1年間継続できた。指導を続けたい。
		コミュニケーション能力の育成を目指す。	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。①⑪⑫⑬	A		特活部と連携した指導を積極的に取り入れた。今後も続けたい。
			生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。①⑬	A		行事計画の充実を図れた。今後も続けたい。
		いじめや不登校生徒への早期対応をしていく。	定期的な実態調査により、いじめの早期発見・早期解消に努める。⑬	A		いじめの早期発見と対応にチームとして取り組めた。
			各教員の細かい観察を元に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に適切な支援を行う。⑦⑬	A		養護教諭と連携して、個別の支援に積極的に取り組めた。継続したい。
			道徳教育や学級活動を通して、他者を尊重する態度を養う。⑥⑬	A		道徳教育の時間を確

別紙様式 2 (中)

					保しつつ、教員間で生徒の実態を共有して指導に当たることができた。
	学習習慣の確立と基礎学力の定着を徹底する。	スコラ手帳を使って時間管理の徹底を図り、1日平均2時間以上、休日平均3時間以上の学習時間を確保させる。 ③④⑧	B		各自活用は進めている。よりきめ細やかな指導につなげたい。
		早めに登校し、始業までの時間に学習や読書をすることで、朝学習の習慣化と自主化を実現させる。学習用ホワイトボードの自主運営と活用を促す。 ③⑧⑩	A		各委員会、係や担任が連携して、HR 運営に生かすことができた。
	業務の見直しを行うことで仕事の改善改革を行う。	複数担任制を取り入れることで業務の分担化を推進し、適切な役割分担と連携を行う。 ⑥②④	A		役割分担を明確にして、業務の効率化を行うことができた。
2 学年	学習習慣の改善と基礎学力の向上を図る。	授業に集中して取り組ませるとともに、予習・授業・復習を柱とした学習方法とその習慣を身に付ける。 ①②⑤⑥	B	B	手帳の活用を生徒に見直させ、自己管理能力を高めさせる。
		手帳を活用し自己管理を行うことを指導し、自学の習慣化を図る取組みを推進する。①②⑥	B		
	基本的な生活習慣の確立を継続する。	挨拶の励行や清掃指導をきちんと行うことにより、学習環境を整えさせる。 ⑥⑦⑧	A		来年度も継続する。
		早めに登校し、始業までの時間を朝課外の学習や読書をすることで、朝から落ち着いて過ごせる環境を醸成する。 ⑥⑦	A		
	コミュニケーション能力の向上を図る。	部活動・委員会活動・学校行事等に積極的に参加させ、コミュニケーションの向上を図れるようにする。 ⑥⑦⑧⑪⑫⑭	A		来年度も継続する。
		ICT 環境の効果的な活用による個別最適化を推進し、国内語学研修等、様々な活動を通して科学的に探究するための手法について習得させ、コミュニケーション力の礎を築く。 ⑦⑫⑭	A		
	いじめや不登校生徒への早期対応を継続する。	道徳教育を推進しつつ、定期的な調査により、いじめを早期発見し、早期解消に努める。 ⑥⑦⑨	A		欠席生徒の状況を学年で共有し、支援が必要な場合は、学年会議やケース会議等を開くなど、個に応じた支援策の検討を図る。
		各教員の細かい観察を基に、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に最適な支援を行う。 ⑥⑩⑫⑪	B		
3 学年	高校への接続に向けて、学習習慣の改善と学力向上を図る。	高校への進学（接続）を意識させ、授業に集中して取り組ませるとともに、外部模試や授業などで1・2学年の内容の復習の機会を設け、基礎基本の定着を目指す。①②③④⑤	B	B	生徒が自らの学力を客観視し、学習習慣を変えていくためにできる支援について考
		高校との連携や ICT および外部サービス等の活用により、学習の個別最適化を推進し、興味関心や能力等に応じて生徒が主体的・自主的かつ積極的に学力を伸ばすことができるよう支	B		

別紙様式 2 (中)

	基本的な生活習慣の確立 支援を継続する。	援する。①②④⑤⑧			える必要がある。
		早めに登校し、始業までの時間に朝学習や読書をすることで、朝から落ち着いて過ごせる環境を醸成する。 ⑦⑧	B		手帳の活用の有無については個人差が大きく、指導が難しかった。
	コミュニケーション能力 の向上を図る。	手帳を活用した自己管理について引き続き指導し、生活や学習を振り返り、調整できる力を養う。⑥⑮	C		最高学年としての意識が各所で見受けられた。
		学級活動や部活動、委員会活動、学校行事等を通じて、クラスメイトや他学年の生徒、教員等とのコミュニケーションの仕方を身に付けさせる。⑦⑧⑨⑪⑫⑭	B		最後まで丁寧に支援を続けることができた。
	いじめや不登校生徒への 早期対応を継続する。	挨拶の励行など、礼儀やマナーなどについて考えさせ、相手を思いやる力やコミュニケーション力を向上させる。⑥⑦⑧⑨⑩⑫	B		
		どの生徒も安心して生活・学習できるよう、複数担任制を生かして正確な生徒理解を図るとともに、生徒や保護者とのコミュニケーションを密にする。⑥⑨	B		
		定期的な調査によりいじめ等の早期発見・早期解消に努め、カウンセラーや保護者と早期に連携し、困難を抱える生徒に最適な支援を行う。 ⑥⑦⑧⑨⑩	B		

※ 評価規準：A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する